

## 2013 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
研究センター長名	西 成彦

### I. 研究成果の概要（公開項目）

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター5か年計画に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

**成果の内容：**2013年度は、研究センター5か年計画に則り、次の2点について重点的な活動をおこなった。

(1) この間重点的に支援を行ってきた「若手研究」の成果発信の機会として、本センター主催の公開研究会・シンポジウム等を積極的に開催した（計41回）。(2) 国内や国外の研究者・研究機関との研究推進・研究協力に取り組んだ。

上記2点に関する重点的な活動に加えて、定期刊行物である雑誌『生存学』第7号（生活書院発行）、多言語ウェブジャーナル *Ars Vivendi Journal vol5 vol6*、『生存学研究センター報告』第21号・第22号を刊行したほか、生存学研究センター編『日韓研究交流活動2013報告書』、メールマガジン（日本語12号、英語24号、韓国語12号）、ウェブサイトやSNSを通じた成果・活動報告につとめた。それぞれの研究は、本センターが掲げる4つの課題群と連関して推進した。

	国際研究の推進	国内シンポジウム等の開催	刊行物・DB構築
I. 生存の現代史	国際共同研究会（韓国・京畿大学共催）、地域社会基盤の社会福祉サービス制度に関する研究会（韓国・大邱大学共催）、中国と障害者に関する研究会、障害学国際セミナー2013	特別講義「生存／社会の現代史」、シンポジウム「労働／生存」、公開研究会「クィア理論と文化・表象・社会運動」	立岩真也『造反有理』（青土社）、桐原尚之ほか編『「精神病」者運動家の個人史2巻』、 <i>Ars Vivendi Journal</i> , No.5, Special Issue: Protest as Ars Vivendi、集積冊子資料のデジタル化、ウェブサイト <a href="http://arsvi.com">arsvi.com</a> の充実
II. 生存のエスノグラフィー	国際交流企画「TEM研究会&英語ポスター発表会」、超高齢社会の新しいエイジング国際研究	特別企画「帝国の盛衰と日本人の移動」、シンポジウム「隔離される生命／表現する身体」、シンポジウム「戦時性暴力と文学」、アフリカセミナー（計6回）	やまだようこほか編『質的心理学ハンドブック』（新曜社）
III. 生存をめぐる制度・政策	国際研究交流企画「Who am I and who will I become」	特別講義・合評会企画「ジェンダー研究の新機軸」、公開企画「老いを支える技法」	大谷通高・村上慎司編『センター報告 第21号 生存をめぐる規範』、 <i>Ars Vivendi Journal</i> , No.6, Special Issue: Global Justice and Ethics
IV. 生存をめぐる科学・技術	国際ワークショップ「病院におけるアート」、研究会「グローバルゼーションと生殖」（南デンマーク大学）	シンポジウム「iPS・ES細胞と生殖技術」、セミナー「出生前診断の技術と倫理」、公開研究会「子どもをもつことをめぐる女性の選択と経験」、映画「陸軍登戸研究所」上映会	小門徳・吉田一史美・松原洋子編『センター報告 第22号 生殖をめぐる技術と倫理』、『生存学』（生活書院）第7号「特集2：生殖／子ども」

**意義と重要性：**(1) 公開研究会・合評会・シンポジウムの開催、刊行物やウェブページを通じた成果発信には先端総合学術研究科の大学院生をはじめ若手研究者が積極的に参加し、グローバルCOEの理念とされた若手研究者養成を着実に継承する教育・研究活動の融合に取り組むことができた。(2) 日本国内・東アジア・欧米について、研究所訪問やシンポジウム等を通じた研究交流をおこない2014年度以降の協定締結・共同研究に結びつける体制を整えた。アフリカについては、定期的に公開セミナーを開催し、学内・学外の専門家・研究者との関係構築を果たすことができた。

本センターが開催するシンポジウムや刊行物などに対しては、社会的な関心も高く寄せられマスメディアの取材や、行政機関等からの問い合わせもたびたびあり、それにより本センターの研究理念や実践的な取り組みと本学の展開する研究活動の先進性を大いに示すことができたと考えている。

## II. 研究業績（公開項目）

本欄には、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2014年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	西成彦	「胸さわぎの鴉外」	単著	2013年12月	人文書院		全225P
2	渡辺克典	「福祉国家」福祉と医療」物語の社会学	単著	2013年4月	新泉社、『増補改訂版 グローバル化時代の新しい社会学』	西原和久・保坂稔（編）	PP36-39 PP108-109 PP234-235
3	天田城介	「社会サービスとしてのケア—シンプルで社会設計こそが社会サービスを機能させる」	単著	2014年8月	東京大学出版会、『親密生の福祉社会学—ケアが織りなす関係』（シリーズ福祉社会学第1巻）	庄司洋子	PP245-263
4	天田城介	「「当事者の声を聞く」という方法とその含意」	単著	2014年7月	中央法規出版、福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く 98の論点』		PP218-219.
5	天田城介	「学会における査読システムの合理性」	単著	2013年4月	東信堂、『学的探求の道案内—研究者であること』	須田木綿子・鎮目真人・西野理子・樫田美雄編集、黒田浩一郎・武川正吾・平岡公一・山田昌弘監修	PP262-279
6	井上彰	「ロールズ—「正義とはいかなるものか」をめぐる一」	単著	2014年	岩波書店、『岩波講座 政治哲学 5—理性の両義性—』	齋藤純一	PP151-172
7	井上彰	「社会契約論とロールズ」「分配と正義」「多元的世界における合意形成」	単著	2013年	丸善出版、『教養としての応用倫理学』	盛永審一郎、浅見昇吾	PP191-191 PP194-195. PP198-199
8	上野千鶴子	『<おんな>の思想 私たちはあなたを忘れない』	単著	2013年6月	集英社インターナショナル		全304P
9	上野千鶴子	『女たちのサバイバル作戦 ネオリベ時代を生きぬくために』	単著	2013年9月	文春新書		全352P
10	上野千鶴子	『身の下相談にお答えします』	単著	2013年5月	朝日新聞出版		全280P
11	上野千鶴子	『ニッポンが変わる女が変わる』	共著	2013年10月	中央公論社		全264P
12	上野千鶴子	『ひとりで苦しまないための「痛みの哲学」』	共著	2013年10月	青土社		全197P
13	小川さやか	『第3章 タンザニアにおける衣料品の消費行動に関する考察—中古衣料品と中国・東南アジア製衣料品の供給システムの違いに着目して』	単著	2013年4月	アジア経済研究所、『国際リユースと発展途上国 調査研究報告書』	小島道一・福西隆弘	PP36-61
14	小泉義之	『債務共和国の終焉—わたしたちはいつから奴隷になったのか』	共著	2013年	河出書房新社	市田良彦、王寺賢太、長原豊	全228P
15	小泉義之	(翻訳)『デカルト全書簡集 第2巻』	分担訳	2013年	知泉書館		全395P
16	立岩真也	『造反有理—精神医療現代史へ』	単著	2013年12月	青土社		全434P
17	立岩真也	『私的所有論 第2版』	単著	2013年5月	生活書院		全973P
18	立岩真也	『協働性の福祉社会学—個人化社会の連帯』	単著	2013年6月	東京大学出版会	藤村正之	PP29-48
19	千葉雅也	『動きすぎたはいけない—ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』	単著	2013年10月	河出書房新社		全372P

20	千葉雅也	『ラッセンとは何だったのか？—消費とアートを越えた「先」』	単著	2013年6月	フィルムアート社、「美術史にブラックライトを当てること—クリスチャン・ラッセンのブルー—」	原田裕規	PP70-78.
21	やまだようこ	「ナラティブ」	単著	2013年9月	東京大学出版会、『発達心理学II』	無藤隆・子安増生(編)	PP.129-135
22	やまだようこ	「実践とは？」という問い	単著	2013年9月	東京大学出版会、『(新装版)心理学と教育実践の間で』	佐伯肝・宮崎清孝・佐藤学・石黒広昭(編)	PP.205-211
23	小門穂	「生存学研究センター報告22 生殖をめぐる技術と倫理 日本・ヨーロッパの視座から」	共編	2014年3月	立命館大学生存学研究センター	小門穂、吉田一史美、松原洋子(編)	
24	小門穂	「生殖補助医療—医学的不妊から社会的な不妊へ増加する利用希望者たち」	単著	2013年12月	パド・ウイメンズ・オフィス、フランスのワークライフバランス～男女平等政策入門：フランス、EU から日本へ～	石田久仁子・井上たか子・神尾真知子・辻山ゆき子・中嶋公子(編)	PP.138-143
25	Minori KOKADO	La tradition japonaise, frein à une iberalization du corps de la femme	共著	2013年11月	Bruyant, Le coprs de la femme et la biomédecine	共著者：Ryuichi IDA 編者：B. FEUILLET	PP. 293-302
26	クァクジョンナン	「近・現代の障害者福祉制度からみた韓国障害者の歴史」(韓国語)	共著	2013年10月	学志社、『韓国で障害学をすすめる』	ジョ・ハンジン(編)、カン・ミンヒ、チョン・ウン、チョ・ウオンイル、チョン・ジへ、ジョン・ヒギョン	PP.263-288
27	松田有紀子	「京都一祇園の女紅場—」	単著	2014年1月	吉川弘文館、『シリーズ遊郭社会2 近世から近代へ』	佐賀朝、吉田伸之(編)	PP.131-151

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	西成彦	「『二世文学』の振幅～在日文学と日系文学をともにみて～」	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7		PP.68-85	無
2	安部彰	「生存と制度をめぐるノート」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP.199-213	無
3	渡辺克典	「特集に寄せて」	共著	2013年8月	東海社会学会、『東海社会学会年報』第5号	後藤澄江		無
4	渡辺克典	「ワークショップ『施設／社会—少年院と障害者労働から考える』(趣旨説明)」	共著	2013年6月	明石書店、『障害学研究』第9号、特集II「地域に出る」そでは手段だったのか目的だったのか)	河口尚子		無
5	Akira Abe	“ The Approach to Global Ethic of Richard Rorty and its Critique”	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『Ars Vivendi Journal(Special Issue:Grobal Ethic), No.6		PP.3-11	無
6	天田城介	「特集「ポスト 3.11における社会理論と実践」に寄せて」	単著	2013年6月	福祉社会学会、『福祉社会学研究』10		PP.7-21	無
7	天田城介	「老いらくの自殺—ポスト経済成長時代の超高齢社会から排除される人たち」	単著	2013年5月	青土社、『現代思想』41-7		PP.98-109	無
8	井上彰	「多元化主義的理端リアリアニズムの哲学的正当化—森村進」	単著	2014年3月	岩波書店、『思想』第1079号		PP.64-71	無

		『リバタリアンは講 考える』一」						
9	Akira Inoue	Justice, Fairness, and Deliberative Democracy in Health Care	単著	2014年	<i>Future of Bioethics: International Dialogues</i> , New York: Oxford Press	Akira Akibayashi (ed)	PP579-585	有
10	Akira Inoue	Is Moderate Essentialism Truly Moderate?	単著	2013年4月	<i>Public Health Ethics</i> , Vol.6, No.1		PP21-27	有
11	上野千鶴子	「闘争と挑戦の福祉 社会学 『シリーズ福 祉社会学』刊行に寄 せて4」	単著	2013年11月	東京大学出版会、『UP』		PP493	無
12	上野千鶴子	「日本のマルチチュ ード ケアをめぐる 実践」	単著	2014年9月	青土社、『現代思想』41-9			無
13	上野千鶴子	「自傷する女たち 現代社会における女 の生きづらさ」	単著	2013年	日本「性とところ」関連問題 学会、『性とところ』vol.5/No.2			無
14	小川さやか	「騙し合い助けあ う商売のしくみ」	単著	2014年1月	国立民族学博物館、『季刊民族 学』, 147号		PP49-66	無
15	小川さやか	「現代消費文化を捉 える人類学的視点の 探求」	単著		国立民族学博物館、『民博通 信』141号		PP20-22	無
16	小泉義之	「出来事(事象)とし ての人生—ドゥルー ズ『意味の論理学』に おける」	単著	2013年10 月	哲学会、『哲学雑誌』第128巻 第800号		PP56-74	無
17	小泉義之	「戦時—戦後体制を 貫くもの—ハイデガ ー(「ヒューマンイズ ム書簡」と「プレー メン講演」の場合)	単著	2013年	ハイデガー・フォーラム、 『Heidegger-Forum』vol.7		PP40-52	無
18	小泉義之	「社会(科)学の啓 蒙的な論調について」	単著	2013年7月	福祉社会学会、『福祉社会学研 究』10号		PP82-99	無
19	小泉義之	「モラリズムの蔓延」	単著	2013年5月	青土社、『現代思想』41-7		PP204-214	無
20	小泉義之	「精神衛生の体制の 精神史—一九六九 年をめぐる」	単著	2013年	洛北出版、『体制の歴史—時代 の線を引きなおす』	天田城介、角崎洋 平、櫻井悟史(編 者)	PP205-262	無
21	立岩真也	「災厄に向う—本人 たち・後方から」	単著	2013年11月	日本学会会議、『学術の動向』, 18-11		PP19-26	無
22	千葉雅也	「アウト・イン・ザ・ ワイルズ 第11回終 わりある分析」	単著	2013年7月	青土社、『現代思想』41-9		PP19-21	無
23	千葉雅也	「アウト・イン・ザ・ ワイルズ 第10回紋 切型と否認」	単著	2013年5月	青土社、『現代思想』41-6		PP25-29	無
24	千葉雅也	「アウト・イン・ザ・ ワイルズ 第9回 すべてではない」	単著	2013年4月	青土社、『現代思想』41-5		PP14-23	無
25	松原洋子	「日本における新型 出生前検査(NIPT) のガバナンス—臨床 研究開始まで」	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センタ ー、『生存学研究センター報告 22 生殖をめぐる技術と倫理 日本・ヨーロッパの視座から』	小門穂、吉田一史 美、松原洋子(編)	PP69-85	無
26	松原洋子	「科学研究費による 科学史研究課題採 択状況—1949年~1971 年を中心に」	単著	2013年9月	日本科学史学会、『科学史研 究』52		PP134-143	無
27	松原洋子	「優生学」	単著	2013年4月	丸善出版、『シリーズ生命倫理 学11 遺伝子と医療』	玉井真理子、松田 純	PP125-142	無
28	やまだよう こ	「負を転換する文化 的ナラティブ—「がん	単著	2013年9月	日本オーラルヒストリー研究 学会、『日本オーラルヒストリ		PP16-24	有

		ばれ日本」と「I love America」			一研究』9			
29	小門穂	フランスにおける同性婚合法化と生殖補助医療	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7		PP153-165	無
30	小門穂	病院におけるアートの実践を支えるしくみ	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7		PP22-27	無
31	小門穂	ハンチントン、ハンディキャップ、ダンス病院におけるダンスと言う試み(翻訳)	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7	著者 Philippe Chéhère	PP8-21	無
32	小門穂	「生殖補助医療における「子を持つという欲望」—フランス生命倫理方2011年改正から」	単著	2013年9月	日本生命倫理学会、『生命倫理』24		PP134-141	有
33	小門穂	生殖に対する医学的補助へのフランス式管理体制の変容	単著	2013年6月	日仏女性研究学会、『女性空間』30		PP132-138	無
34	角崎洋平	「アンダーソンの民主主義的平等論—「関係性」概念をめぐって」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP12-51	無
35	倉橋耕平	「<性奴隷>は新聞報道にどのように登場したか—1991-92年の国内紙・英字紙を中心に」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP76-99	無
36	櫻井悟史	「死刑存置論と死刑肯定論—カント『人倫の形而上学』における死刑についての考察」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP134-163	無
37	利光恵子	「出生前診断をめぐる論争—受精卵診断を中心に」	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学研究センター報告22号 生殖をめぐる技術と倫理 日本・ヨーロッパの視座から』	小門穂、吉田一史美、松原洋子(編)	PP69-85	無
38	藤原信行	「あなたもGKB47宣言」論争における自殺をめぐる規範的秩序—争点としての、自殺(者)カテゴリの「述部」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP100-133	無
39	中倉智徳	「イノベーション論の批判的検討にむけて—発明の社会学からイノベーション・プロセスの経済学へ」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP238-265	無
40	堀田義太郎	「差別論のためのノート」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP52-73	無
41	村上慎司	「生存と協働を支える所得保障制度試論」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP216-237	無
42	イムドクヨン	「1960年代の韓国における『浮浪者』に対する政策と社会的ま	単著	2013年12月	日本寄せ場学会、『寄せ場』No26		PP85-112	無

		なぎしー『国土建設団』を事例として						
43	大谷通高	「犯罪という侵害の苦しみからの解放—ハワード・ゼアの修復的司法論の依拠して」	単著	2014年3月	生存学研究センター、『生存学研究センター報告21号 生存をめぐる規範 オルタナティブな秩序と関係性の生成に向けて』	大谷通高、村上慎司(編)	PP164-198	無
44	桐原尚之	「Y問題における被害事実と運動方針—Y君は何と闘ったか」	単著	2014年2月	立命館大学人間科学研究所、『立命館人間科学研究』No.29		PP46-63	有
45	桐原尚之	「全国「精神病」者集団の結成前後—大阪・名古屋・京都・東京の患者会の歴史」	共著	2013年10月	立命館大学人間科学研究所、『立命館人間科学研究』No.28	長谷川唯	PP27-41	有
46	桐原尚之	「障害者自立支援法における相談支援事業の仕組みにかんする考察—これからの相談支援事業の方向性を探る」	共著	2013年10月	立命館大学人間科学研究所、『立命館人間科学研究』No.28	長谷川唯	PP85-97	有
47	クァクジョンナン	「ろう児のためのフリースクール—「龍の子学園」開校前史」	単著	2014年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科、『Core Ethics』		PP61-72	有
48	小西真理子	「自己紹介に嗜癖する—ギデンズ、フーコーを手がかりに」	単著	2013年5月	日本嗜癖行動学会、『アディクションと家族』29-(2)		PP149-156	有
49	小西真理子	「キャロル・ギリガン著「道徳の方向性と道徳的な発達」(翻訳)」	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7		PP229-244	無
50	小西真理子	「キャロル・ギリガン」(解題)	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7		PP245-251	無
51	権藤真由美	「ヴェトナムハノイILセンター設立経緯と運営展望における諸問題」	単著	2014年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科、『Core Ethics』		PP85-96	有
52	坂井めぐみ	「臨床試験計画への患者の関与—脊髄損傷者への再生医療に着目して」	単著	2014年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科、『Core Ethics』		PP97-108	有
53	白田幸治	「障害の社会モデルは解放の思想か?—精神障害のとらえがたさをめぐって」	単著	2014年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科、『Core Ethics』		PP121-130	有
54	田中壮泰	「二言語詩人フォーゲル」	単著	2014年3月	日本スラブ学研究会、『スラブ学論集』		PP218-243	有
55	萩原浩史	「障害者政策の変遷と相談支援・1996—2000年」	単著	2014年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科、『Core Ethics』		PP179-190	有
56	松田有紀子	「伝統を創り出すく芸—花街・祇園町における都をどりの分析から」	単著	2014年3月	民族芸術学会、『民族芸術』30		PP1-7	有
57	松田有紀子	「客を取り込む社交のゲーム—京都花街における女将の戦略から」	単著	2014年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科、『Core Ethics』		PP215-226	有
58	矢野亮	「大阪における『地域に残された人びと』の発見—大阪住吉地区における「老人問題」の問題化の歴史を事例にして—」	単著	2013年10月	立命館大学人間科学研究所、『立命館人間科学研究』No.28		PP67-83	有

59	由井秀樹	「カレン・ヴァイトフェルト・メルソン著『インドでつくられる』赤ん坊—依頼者の母性と国境を越えた代理懐胎」(翻訳)	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7		PP145-152	無
60	由井秀樹	「日本における非配偶者人工授精導入時の法律問題研究—法的父子関係をめぐる議論を中心に」	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学研究センター報告22 生殖をめぐる技術と倫理 日本・ヨーロッパの視座から』	小門穂、吉田一史美、松原洋子(編)	PP191-207	無
61	由井秀樹	「日本における非配偶者間人工授精の導入と産婦人科学における男性不妊研究の展開—産婦人科医向け雑誌の分析から」	単著	2013年12月	日本科学史学会、『科学史研究』第Ⅱ期第268号		PP177-184	有
62	吉田一史美	「KinTra:デンマークの研究プロジェクト—子ども、身体、生命倫理が動くとき」(翻訳)	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学』7		PP136-144	無
63	吉田一史美	「障害児と養子縁組—日本の児童福祉における倫理的課題」	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学研究センター報告22 生殖をめぐる技術と倫理 日本・ヨーロッパの視座から』	小門穂、吉田一史美、松原洋子(編)	PP223-237	無
64	吉田一史美	「第二次大戦前後の日本における乳児の生命保護—産婆による乳児保護から児童福祉へ」	単著	2013年11月	日本医学哲学・倫理学会 『医学哲学・医学倫理』31		PP11-21	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	安部彰	「R・ローティのJ・S・ミル評価について」	2013年11月	関西倫理学会、立命館大学	
2	Akira Inoue	“Luck Egalitarianism and Catastrophe”	2014年3月	10 <sup>th</sup> International Conference “Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity “、Ritsumeikan University	
3	井上彰	「運の平等論をめぐって」	2014年2月	第1回日本学術振興会・科学研究費「震災復興政策における分配的正義」(研究代表者:宇佐美誠)研究会、京都大学	宇佐美誠
4	井上彰	「平等—その基礎をめぐる考察—」	2014年1月	一橋大学経済研究所・共同利用・共同研究拠点「厚生経済学と政治哲学」研究会、一橋大学経済研究所	
5	井上彰	「規範理論と実証理論との対話—リバタリアン・パターナリズムを手がかりに—」	2013年11月	日本法哲学会2013年度学術大会、駒澤大学	若松良樹、清水和巳、宇田川大輔
6	井上彰	「森村進『リバタリアンはこう考える—法哲学論集—』(信山社、2013)を呼んで」	2013年11月	現代規範理論研究会主催「森村進『リバタリアンはこう考える—法哲学論集—』(信山社、2013)合評会」、専修大学	
7	Akira Inoue	“ Taming Luck Egalitarianism Successfully? ”	2013年8月	Justice, Taxation, and Social Philosophy Conference、Salzburg University	
8	井上彰	「分析的政治哲学とロールズ『正義論』」	2013年5月	第20回政治思想学会研究大会、慶應義塾大学	
9	小川さやか	「Living for Today の人類学」(講演)	2014年2月	日本文化人類学会関東地区研究懇談会、早稲田大学	

10	小川さやか	「非正規品取引システムにみるインフォーマル経済のダイナミズム」(講演)	2013年12月	シンポジウム 21世紀10年代日本文化の軌道修正:過去の検証と将来への提言『商取引・藝術創作・海賊行為:社会精度の綻び目は文化創造のニッチとなるか?』、国際日本文化研究センター
11	小川さやか	「政治のストリート化とストリートの政治化—タンザニアのポピュラー音楽「ボンゴ・フレバー」の消費をめぐる」(講演)	2013年12月	日本ポピュラー音楽学会記念シンポジウム『エキゾティシズムとその向こうにあるもの—ポピュラー音楽の(非)嫡出子たち』、関西学院大学
12	小川さやか	「草の根のグローバル化のダイナミズム—東アフリカ商人の模造品取引を事例に」(講演)	2013年11月	日本文化人類学会公開シンポジウム『現代人類学のフィールドワーク力』、京都大学
13	小川さやか	ディスカッサント	2013年10月	第10回日独先端科学シンポジウム:社会科学分野「Management of uncertainty-dynamics of change and problems of control」、京都部ライントンホテル
14	小川さやか	「中古品と非正規品の流通システムにおける盗みと贈与」	2013年9月	国立民族学博物館共同研究『贈与論再考』、国立民族学博物館
15	Sayaka OGAWA	“Trust in being Ujanja: The Business Practices and Creeds among Petty Traders in Tanzania”	2013年8月	17 <sup>th</sup> The World Congress of International Union of Anthropology and Ethnology Session: G20 Trust in Super-diversity, Manchester University
16	小川さやか	「タンザニアにおける古着と非正規衣料品の消費行動」	2013年7月	共同研究『国際リユースと発展途上国』、アジア経済研究所
17	小川さやか	「噂・ゴシップを通じたストリートの政治化—タンザニアの路上商人の組合化を事例に」	2013年6月	日本文化人類学会第47研究大会
18	小川さやか	「ストリートの政治化と政治のストリート化」	2013年5月	国立民族学博物館共同研究『交錯する態度の人類学』、高知大学
19	立岩真也	「家族のために家族でない方がよい—日本での約20年」	2013年11月	政策提言のための韓日ALS国際セミナー、韓国ソウル市・レキシントンホテル
20	Masaya Chiba	“The Two Sides of Deleuzian Image of Thought: Universal Connection and Assignifying Rupture”	2013年6月	The First International Deleuze Studies in Asia Conference, Tamkang University, Taipei
21	松原洋子	「大学図書館のアクセシビリティ—テキストデータ提供を中心に」	2014年3月	マニフェスト評価機構デジタルアーカイブ研究所・R-GIRO 研究プログラム「電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究」合同研究会「図書館デジタル化をめぐる—障害者差別解消法を受けて」、東洋大学
22	松原洋子	「日本の高等教育における電子書籍アクセシビリティの課題—テキストデータの利用を中心に」	2013年9月	科学社会学会第2回年次大会、東京大学
23	松原洋子	「大学薬学部のコアカリキュラムと薬害問題・倫理教育の展開」	2013年8月	「薬害教育」に向けた多声的「薬害」概念の提起 (JSPS 科研費: ; 25285163) 研究会、マッセ梅田ビル
24	小門穂	生殖補助医療をめぐる今日的課題	2013年11月	立命館大学ライスボールセミナー、立命館大学

25	小門穂	フランスにおける被験者保護	2013年8月	「生命科学研究の規制と支援の法制度に関する包括的研究」研究会（科研費基盤A、研究代表者：米村慈人）、東北大学	
26	小門穂	フランスにおける代理出産の現状	2013年6月	京都生命倫理学会、大津	
27	近藤宏	形態的なイメージをめぐって	2014年2月	科研費A動物殺しの比較民族誌、桜美林大学	
28	近藤宏	財としての土地の出現	2013年10月	環太平洋文明研究センタ定例研究会、衣笠キャンパス	
29	近藤宏	誘惑と偶然	2013年6月	第47日本文化人類学会研究大会、慶応大学	
30	安孝淑	「ALSの人に対する社会的責任の現状と可能性」	2014年3月	国際カンファレンス「社会正義とカタルシス：リスク・責任・互恵性」、立命館大学	
31	安孝淑	「THE PRESENT STATUS AND PROBLEM OF THE COMMUNICATION SUPPORT FOR ALS PATIENTS:EXPLORE THE DIRECTION OF IT COMMUNICATION SUPPORT AND QUALITY OF LIFE FOR ALS PATIENTS IN FUTURE」	2013年12月	The 24 <sup>th</sup> International Symposium on ALS/MND、Atahotel Quark Hotel	桐原尚之、長谷川唯
32	安孝淑	「韓国におけるALS患者家族の社会的孤立とその課題」	2013年6月	第11回福祉社会学学会、立命館大学	
33	イムドクヨン	「貧困者の健康に生きる権利・健康に生きる義務—大阪あいりん地区におけるDOTS事業を中心に」(ポスター発表)	2013年12月	『障害学国際セミナー2013』、立命館大学	
34	角田あさな	「ルイス・キャロルの『アリス』作品における価値としてのパラドクス—帽子屋と三月ウサギを例として—」	2013年10月	第64回美学学会全国大会若手研究者フォーラム、東京藝術大学	
35	桐原尚之	「法律で差別はなくなるのか」	2013年11月	『障害学国際セミナー2013』、立命館大学	
36	桐原尚之	「仏祥院・心道学園裁判闘争から見える精神障害者隔離の本質」(一般演題)	2013年10月	第56回病院・地域精神医学大会、札幌	
37	桐原尚之	「医療観察法の事例報告のされ方の検討(1)」(一般演題)	2013年10月	第56回病院・地域精神医学大会、札幌	長谷川唯
38	桐原尚之	「赤堀さんを殺して我々に明日はない—現在における我々の明日とは何か」(ポスター報告)	2013年10月	障害学会第10回大会、東京	
39	桐原尚之	「分配の根拠としての障害—経験と責任帰属性」(テーマセッション)	2013年6月	福祉社会学学会第11回大会、京都	
40	桐原尚之	「日本精神保健福祉士協会苦情処理規程の守秘義務違反の取り扱いに関わる課題—日本精神保健福祉士協会による懲罰処分の事例から」(一般演題)	2013年6月	第12回日本精神保健福祉士学会学術集会	
41	クァクジョンナン	「日本におけるろう児の言語権」(ポスター発表)	2013年11月	『障害学国際セミナー2013』、立命館大学	
42	小西真理子	「共依存という語の存在意義—フェミニズムによる批	2013年11月	第66回関西倫理学会大会、立命館大学	

		判の検討]			
43	小西真理子	“ Codependence as a Symbiosis : Focusing on Sexual Relationship ”	2013年9月	8 <sup>th</sup> Global Conference:The Erotic:Exploring Critical Issues,Inter-Disiplinary.Net, Mansfield College of University of Oxford,	
44	小西真理子	“ The Double Effects of Confession : Narration and Sexual Addiction”	2013年5月	The 2 <sup>nd</sup> Asia Pacific Behavioural and Addiction Medicine Conference (2 <sup>nd</sup> APBAM) ; Transforming Journeys,Singapore,	
45	小西真理子	“Similarities and difference between the Ethics of Care and Japanese <i>Amae</i> ”	2013年4月	Symposium international:Les ethiques du care et du souci:quells apports pour les sciences sociales ? Universite d'Ottawa,Faclute des Science sociales	
46	権藤真由美	「障害女性の困難ーヴェトナムハノイにおけるインタビュー調査から」	2013年9月	『障害学国際セミナー2013』、立命館大学	
47	権藤真由美	「障害女性の困難ーDP Hanoi の活動と障害女性が望む支援」	2013年9月	第10回障害学会2013、早稲田大学	
48	権藤真由美	「ヴェトナムハノイ地域における障害者の「自立生活」	2013年5月	立命館大学2012年度国際的研究活動促進研究費を活用した海外調査・国際学会報告等の成果発表会、立命館大学	
49	坂井めぐみ	「再生医療の臨床試験計画における患者と研究者のコミュニケーションー脊髄間質細胞移植をめぐる」	2014年1月	科学コミュニケーション研究会第38回関西支部勉強会、京都大学	
50	坂井めぐみ	「国内の患者団体による臨床試験への関与ー日本せきずい基金の事例」	2013年12月	JST 再生医療実現拠点ネットワーク事業・日本臨床薬理学会学術総会、東京国際フォーラム	
51	坂井めぐみ	「脊髄損傷に関する日本の再生医療史ー臨床研究とガイドライン制定への当事者団体の関与を中心に」	2013年5月	日本科学史学会総会第60回年会、日本大学	
52	坂井めぐみ	「iPS・ES細胞と生殖技術ーその学問的成果・技術的有用性・倫理的問題」シンポジウム (指定質問)	2013年12月	立命館大学生存学研究センター	
53	松田有紀子	「都踊の創出ー京都博覧会と祇園町」	2013年6月	民族藝術学会6月例会、立命館大学	
54	矢野亮	「戦後大阪の都市部落における<給付>と<貸付>をめぐるー大阪住吉における日掛積立預金運動を事例にー」	2013年7月	大阪市立大学都市社会運動研究会、大阪市立大学	
55	矢野亮	「大阪における隣保事業の歴史的展開過程に関する社会学的研究ー大阪住吉地区を事例として」	2013年6月	福祉社会学会第11回大会、立命館大学	
56	由井秀樹	「戦時人口政策と不妊症研究、及び産婦人科医学者集団の動向」	2013年12月	第17回科学史西日本研究大会、龍谷大学	
57	由井秀樹	「非配偶者間人工授精の優生学的適応ー1940年代終盤から1950年代の日本の展開」	2013年9月	『障害学国際セミナー2013』、立命館大学	
58	由井秀樹	「家族計画と人工授精ー1940年代後半から1950年代にかけての展開」	2013年9月	第23回日本家族社会学会大会、静岡大学	

59	由井秀樹	「日本における人工授精普及過程に関する歴史的検討—『生殖の医療化の進展』」	2013年5月	第39回日本保健医療社会学会大会、東洋大学	
60	吉田一史美	「日本における養子制度と児童福祉の歴史—昭和20年代における産婆制度の解体と児童福祉法の成立」	2014年2月	研究会「養子制度と児童福祉の比較史」、一橋大学経済研究所	
61	吉田一史美	「日本の乳児保護事業と養子・里子の慣習—児童福祉法の成立」	2013年12月	第23回リプロダクション研究会「養子縁組による親子形成とアイデンティティ：歴史と現在」、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター	
62	吉田一史美	「戦後日本における胎児・乳児の生命保護—寿産院事件・菊田医師事件・このとりのゆりかご」	2013年4月	合同研究会「生命倫理・第三世代の会×生存学—討議を通じて実践する生命倫理学と生存学」、立命館大学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	生存のエスノグラフィ 国際交流企画 TEM研究会&英語ポスター発表会	衣笠キャンパス	2013年4月		
2	生命倫理・第三世代の会 × 生存学 合同研究会—討議を通じて実践する生命倫理学と生存学	衣笠キャンパス	2013年4月		生命倫理・第三世代の会
3	国際ワークショップ 「ダンスの実践とハンチントン病の生」	朱雀キャンパス	2013年4月		
4	アフリカセミナー1 「もうひとつの使い捨て文化—古着のゆくえ」「日本の若者はなぜアフリカを目指すのか？」	衣笠キャンパス	2013年5月		
5	アフリカセミナー2 「病いと共にあるつながり—エイズ・人権・社会運動」	衣笠キャンパス	2013年6月		
6	京畿大学校 国際共同研究会	衣笠キャンパス	2013年7月		先端総合学術研究科
7	アフリカセミナー3 「個人の生と歴史の脈絡」	衣笠キャンパス	2013年7月		
8	生存学国際研究交流企画 (Cordula Brand 氏研究会)	衣笠キャンパス	2013年7月		
9	生存学セミナー2013	キャンパスプラザ 京都	2013年8月		
10	日本質的心理学会第10回大会・立命館大学生生存学研究センター共催 一般公開シンポジウム	衣笠キャンパス	2013年9月		日本質的心理学会
11	隔離される生命/表現する身体—障害当事者の共同体と文学をめぐって—研究会	衣笠キャンパス	2013年9月		
12	現代社会エスノグラフィ研究会 第1回公開研究会	衣笠キャンパス	2013年9月		
13	アフリカセミナー4 『アフリカ文学の彩り～Black, White & Others』	衣笠キャンパス	2013年10月		
14	中国と障害者に関する研究会	衣笠キャンパス	2013年10月		学術研究助成基金助成金・基盤研究 C 「障害者の権利条約の実施過程の研究」
15	映画『僕の後に道はできる』上映会&山元加津子さんを招いてのトークセッション	衣笠キャンパス	2013年11月		先端総合学術研究科・障害とテクノロジー研究会
16	アフリカセミナー5 ブルキナファソ Kaba-Kô 公演 「アフリカの大地から日本の大地へ」	衣笠キャンパス	2013年11月		Kaba-Kô 日本公演実行委員会

17	歴史社会学研究会 「体制の歴史」合評会	衣笠キャンパス	2013年11月		
18	韓国障害開発院訪問/交流企画	韓国	2013年11月		
19	アフリカセミナー6 「身体に宿る共同性：視覚・聴覚障害者の身振りとりズム」	衣笠キャンパス	2013年11月		
20	障害学国際セミナー2013	衣笠キャンパス	2013年11月		韓国障害学研究会、人間科学研究所
21	現代社会エスノグラフィ研究会第2回公開研究会	衣笠キャンパス	2013年11月		
22	帝国の盛衰と日本人の移動研究会	衣笠キャンパス	2013年12月		
23	iPS・ES細胞と生殖技術その学術的成果・技術的有用性・倫理的問題』シンポジウム	衣笠キャンパス	2013年12月		
24	特別講義「生存/社会の現代史」	衣笠キャンパス	2013年12月		人間科学研究所
25	フェミニズム研究会 第2回公開研究会	衣笠キャンパス	2013年12月		
26	「フーコーの闘争」合評会	朱雀キャンパス	2014年1月		
27	「地域社会基盤の社会福祉サービス制度に関する研究会」	衣笠キャンパス	2014年1月		テグ大学大学院社会福祉学科 BK21PLUS 事業団
28	現代社会エスノグラフィ研究会 第3回公開研究会	衣笠キャンパス	2014年1月		
29	フェミニズム研究会 第3回公開研究会	衣笠キャンパス	2014年1月		
30	生存のナラティブと質的研究会」主催研究会—超高齢化社会の新しいエイジング国際研究	衣笠キャンパス	2014年1月		日本心理学会ナラティブと質的研究会、日本発達心理学会ナラティブと質的研究分科会
31	「生存学と文学」研究会 《文学・移動・身体》	衣笠キャンパス	2014年1月		
32	労働/生存 外国人労働者をめぐる運動と/の連帯	衣笠キャンパス	2014年1月		人間科学研究所
33	「新奇なものをめぐる日常知と専門知」研究会	衣笠キャンパス	2014年2月		
34	映画『ルート181 —パレスチナ〜イスラエル 旅の断章』上映会	衣笠キャンパス	2014年2月		
35	ハリム大学訪問	衣笠キャンパス	2014年2月		ハリム大学
36	ジェンダー研究の新機軸:エスノメソドロジーからのアプローチ	衣笠キャンパス	2014年2月		
37	「陸軍登戸研究所」上映会	衣笠キャンパス	2014年3月		人間科学研究所
38	UCバークレーシンポジウム	カリフォルニア大学バークレー校	2014年3月		カリフォルニア大学バークレー校
39	老いを支える技法シンポジウム	朱雀キャンパス	2014年3月		(株)はいせつ総合研究所 (むつき庵)
40	出生をめぐる倫理研究会公開研究会	衣笠キャンパス	2014年3月		
41	戦時性暴力と文学研究会	衣笠キャンパス	2014年3月		

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	安部彰	「大庭健『いのちの倫理』(書評)」	南山大学社会倫理研究所、『社会と倫理』28	2013年11月	
2	天田城介	「私達がやるべきこと—大野哲夫・花田昌宣・山本尚友編『ハンセン病講義—学生に語りかけるハンセン病(現代書館)』(書評)」	鉄道身障者福祉協会「リハビリテーション」2014年4月号	2014年3月	
3	天田城介	「天田城介 Vol4 社会学の視点から「認知症になるということ」—「人間的秩序を生きる」	認知症きらきらネット、2014年4月号掲載	2014年3月	

4	天田城介	「天田城介 Vol3 社会学の視点から 団塊世代の「若い」はどうなってい くのか」	認知症きらきらネット、2014年3月号掲載	2014年3月
5	天田城介	「天田城介 Vol2 社会学の視点か ら「施設で老いる」ということ」	認知症きらきらネット、2014年2月号掲載	2014年2月
6	天田城介	「天田城介 Vol1 社会学の視点か ら「若い衰える」ことを考える」	認知症きらきらネット、2014年1月号掲載	2014年1月
7	天田城介	「連載：認知症になるということ— 第3話「巻き込む」	グロービア、『Care Conference』2014年1月号	2014年1月
8	天田城介	「超高齢社会における「人間を見つ めるまなざし」	京都新聞、「人権ロコミ情報」（公益財団法人世 界人権問題センター） 2013/12/05	2013年12月
9	天田城介	「連載：認知症になるということ— 第2話「不安になる」	グロービア、『Care Conference』2013年10月号	2013年10月
10	天田城介	「連載：認知症になるということ— 第1話「とりつくろう」	グロービア、『Care Conference』2013年7月号	2013年7月
11	小川さやか	「世界へ関西スピリッツ：異郷で羽 ばたく(5)」（取材）	日本経済新聞 2014/1/11 朝刊	2014年1月
12	小川さやか	「インデックスを飼いならず」（随 筆）	京都新聞「現代のことば」2014/1/25 夕刊	2014年1月
13	小川さやか	「書くことと民主主義」（随筆）	京都新聞「現代のことば」2013/11/21 夕刊	2013年11月
14	小川さやか	「使い捨て文化を考える—中古品と 非正規品の流通を事例に」	2013年度第5回白山人類学研究会（於東洋大学）	2013年11月
15	小川さやか	「科学技術と信頼」（随筆）	京都新聞「現代のことば」2013/9/25 夕刊	2013年9月
16	小川さやか	「インフォーマル経済」（随筆）	京都新聞「現代のことば」2013/7/25 夕刊	2013年7月
17	小川さやか	「使い捨て文化を考える—アフリカ における古着の流通を事例に」（講演 9	大阪高齢者大学校	2013年7月
18	小川さやか	「タンザニアのたくましき零細商人 —不確実な時代を生き抜く知恵」（講 演）	阪神シニアカレッジ	2013年6月
19	小川さやか	「小川さやか×原田祐馬」（対談）	インターネット雑誌『カンパセーションズ』	2013年5月
20	小川さやか	「つながりを考える—タンザニアの 零細商人マッチングを事例に」（講演）	野良人類学研究会『不確かさを生きる技法—コ ミュニティ難民という視座』	2013年5月
21	小泉義之	「観念論的、唯物論的、電子メール 的」（評論）	『現代思想』42	2014年1月
22	小泉義之	千葉雅也『動きすぎではいけない— ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』 （書）	『文藝』2013年冬号	2013年
23	小泉義之	「生権力・生政治を超克するために —命の弁別問題から医療・福祉制度 批判まで」小松美彦『生を肯定する —いのちの弁別にあらがうために』 （青土社）特集巻頭言：「やはり嘘つ きの舌は抜かれるべきである—デモ クラシーは一度でも現れたか」（対 談）	『情況』2013年11-12月別冊	2013年11月
24	小泉義之	「飲屋政談と蘊蓄披露：市野川容 孝・宇城輝人編『社会的なものた めに』」（書評）	『情況』2013年6月別冊	2013年6月
25	立岩真也	「CLIスクラム10周年を祝して—関 西障害者運動のこと他」（講演）	大阪市立大正東中学校体育館	2014年3月
26	立岩真也	「生の現代のために・1—連載 97」 （連載）	『現代思想』41	2014年3月
27	立岩真也	「今を見立てる／出来事を迎る」（講 演）	（東京）国立科学博物館講堂	2014年2月
28	立岩真也	「生の歴史」（連載）	慶應義塾大学通信教育部刊『三色旗』	2014年2月
29	立岩真也	尊厳死法制化について（コメント）	東京新聞 2014/2/21 朝刊	2014年2月

30	立岩真也	「今を見立てる／出来事を迎る」(講演)	広島修道大学人文学部学術講演会	2014年2月
31	立岩真也	「患者及び患者支援団体等による研究支援体制の構築に関わる研究」班報告書(報告書)	平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業「患者および患者団体等による研究支援体制の構築に関わる研究」	2014年1月
32	立岩真也	「胃ろうと「延命」について」(講演)	「難病家族に開け！進化する介護2013！」in東京シンポジウム	2014年1月
33	立岩真也	「課外授業」(講演2回)	枚方市立図書館	2013年12月
34	立岩真也	「私が決め、社会が支える、のを当事者が支える」(講演)	ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業セミナー	2013年12月
35	立岩真也	「差別はたぶんなくならないーでも、高槻・大阪(他)の人々はやってきた」	高槻市生涯学習センター	2013年12月
36	立岩真也	『「造反有理」はでたが、病院化の謎は残るー連載96』(連載)	『現代思想』41	2013年12月
37	立岩真也	「生の技法／生の条件」(連載)	慶應義塾大学通信教育部刊『三色旗』	2013年12月
38	立岩真也	「これからのためにも、あまり立派でなくても、過去を知る」(講演)	精神保健従事者団体懇談会主催第7回精神保健フォーラム「変わるのか？病院、地域ー精神保健福祉法改正をうけて」	2013年11月
39	立岩真也	「それは家族を大切にすることでもある・明日話すこと」(講義)	韓国キョンギ大学大学院	2013年11月
40	立岩真也	「信じなくてよいことを信じないこと」(講演)	新潟県立万代高等学校	2013年11月
41	立岩真也	「良い生／唯の生」(連載)	慶應義塾大学通信教育部刊『三色旗』	2013年11月
42	立岩真也	「精神医療を巡る現代史の本についてー連載・95」(連載)	『現代思想』41	2013年11月
43	立岩真也	「家族介助から他人介助へ、ボランティアから有償介助へ」(講演)	JICA主催「障害者のリーダーシップ育成とネットワーキング」	2013年10月
44	立岩真也	オランダでの安楽死の動向について(コメント)	『週刊ポスト』	2013年10月
45	立岩真也	「重度の肢体不自由者の地域生活／障害者自立支援法及び関連法規」(基調講演9)	NPO スリーピース主催重度訪問介護従業者養成研修	2013年10月
46	立岩真也	「書評：庄司洋子：河東田博・河野哲也・菅波隆編『自立と福祉ー制度・臨床への学際的アプローチ』」(書評)	『リハビリテーション』557	2013年10月
47	立岩真也	「精神医療についての本の準備・7ー連載・94」(連載)	『現代思想』41	2013年10月
48	立岩真也	「精神医療についての本の準備・6ー連載・93」(連載)	『現代思想』41	2013年9月
49	立岩真也	「共同のためにも国家を使う」(講演)	第30回記念共同連全国大会新潟大会	2013年8月
50	立岩真也	「精神医療についての本の準備・5ー連載・92」(連載)	『現代思想』41	2013年8月
51	立岩真也	「精神医療についての本の準備・4ー連載・91」(連載)	『現代思想』41	2013年7月
52	立岩真也	「人命の特別を言わず／言う」(講演)	第44回「現代と親鸞の研究会」	2013年6月
53	立岩真也	「重度肢体不自由者の地域生活について」(講義)	NPO ゆに主催重度訪問介護従業者養成研修	2013年6月
54	立岩真也	「安楽死尊厳死をめぐって」(講演)	DPI日本会議総会	2013年6月
55	立岩真也	“The Time of Death” (講演)	韓国ハンリム大学	2013年6月
56	立岩真也	「精神医療についての本の準備・3ー連載・90」(連載)	『現代思想』41	2013年6月
57	立岩真也	(新型)出生前診断について(コメント)	『週刊現代』	2013年5月

58	立岩真也	「精神医療についての本の準備・2 一連載・89」(連載)	『現代思想』41	2013年5月
59	立岩真也	「障害者の自立を考える」(対談)	『地域リハビリテーション』8-4	2013年4月
60	立岩真也	「精神医療についての本の準備・1 一連載・88」(連載)	『現代思想』41	2013年4月
61	千葉雅也	「中途半端に猛り狂う狂気について」(対談)	『新潮』第101巻3号	2014年3月
62	千葉雅也	「工藤哲巳の<黄ばみ>について」 (批評)	『美術手帖』第999号	2014年2月
63	千葉雅也	「痛快なる切断の書を読む 『動き すぎたはいいけない—ジル・ドゥルーズ と生成変化の哲学』をめぐって」 (対談)	『文藝』第53巻1号	2014年1月
64	千葉雅也	「ポスト・ポスト構造主義のエステ ティクス」(対談)	『現代思想』42-1	2014年1月
65	千葉雅也	「つながりすぎ社会を生きる」(対 談)	朝日新聞 2013/12/11 朝刊	2013年12月
66	千葉雅也	「ドゥルーズの言葉に導かれて— 『動きすぎたはいいけない』(河出書房 新社)を機に」(対談)	『週刊読書人』	2013年11月
67	千葉雅也	「分裂分析的哲学—ガタリは何を解 放したか」(対談)	『現代思想』41-8	2013年6月
68	千葉雅也	「思想停止についての試論—2013 年のフランシス・ベーコン展」(批評)	『すばる』第35巻6号	2013年6月
69	松原洋子	「電子書籍のアクセシビリティバ リアフリーのためのイノベーション」(講演)	第9回公共圏における科学・技術教育拠点 (STIPS, 大阪大学・京都大学連携プログラム) 主催ラボカフェ シリーズ: 科学技術イノベー ション、	2013年11月
70	松原洋子	コメント	日本経済新聞 2013/11/17 朝刊 「遠見卓見」(「日曜に考える 熱風の日本史 第12回「産めよ」「産ますな」国のため」	2013年11月
71	松原洋子	「出生前検査 その課題は?」(コメ ント)	NHK ラジオ第一放送 2013/5/30 放送	2013年5月
72	松原洋子	「出生前検査は誰のためのものか— 技術の倫理を考える」(講演)	第3055回立命館土曜講座	2013年5月
73	小門穂	(コラム) 研究手帖 生殖補助医療 利用における「平等」について	青土社、『現代思想』42	2013年7月
74	近藤宏	Languages in the daily of the Embera	Global session	2014年3月
75	安孝淑	「2013年度日韓交流を振り返って」	生存学研究センター、『日韓研究交流活動 2013 報告書』	2014年3月
76	イムドクヨ ン	「日本編」	韓国ソウル市2013年人権保護及び増進活動支援 事業、ホームレス事業『ホームレスの名義貸し 実態調査および政策代案研究』	2013年
77	イムドクヨ ン	「『新たな施設』の誕生、兄弟福祉院 事件の背景」	『学術討論会「監禁の歴史、収容の時間と兄弟 福祉院」資料集』第一部韓国における収容・監 禁政策の政治社会学、	2013年11月
78	イムドクヨ ン	「日本の住居関連の貧困ビジネス— シェアハウス、シェアする幸せ?」	『ホームレス・ニュース』17号、ホームレス行 動(韓国語)	2013年11月
79	イムドクヨ ン	「日本の住居関連の貧困ビジネス— 無料低廉宿泊所」	『ホームレス・ニュース』16号、ホームレス行 動(韓国語)	2013年10月
80	イムドクヨ ン	「日本の住居関連の貧困ビジネス— 保証人制度」	『ホームレス・ニュース』15号、ホームレス行 動(韓国語)	2013年9月
81	イムドクヨ ン	「日本の住居関連の貧困ビジネス— その背景と『ゼロゼロ物件』」	『ホームレス・ニュース』14号、ホームレス行 動(韓国語)	2013年7月
82	イムドクヨ ン	「パンフレット用語解説 I」	立命館大学コリア研究センター、慶應義塾大学 総合政策学部李洪千研究室、北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院東亜細亜 メディア研究センター共催 『二つの扉—韓 国・ソウル再開発地域での惨劇』「全国撤去民連 合」「烏山市(オサン)水清洞(スチャンドン) 撤去事件」「双竜(サンヨン)自動車労働者の『玉	2013年6月

			砕ストライキ』事件」	
83	イムドクヨン	「朴正熙と全斗煥はなぜ『浮浪者』を狙ったのか—独裁者の訓令、今日のもう一つの訓令」	『二六年、兄弟福祉院シリーズ』、『prssian』2013年6月12日（韓国語）	2013年6月
84	イムドクヨン	「二六年、兄弟福祉院—1975年内務部訓令第四 19号をみると兄弟福祉院が見えてくる」	人権オルム（第三四九号）人権サランバン（『pressian』と同時掲載）2013年6月12日（韓国語）	2013年6月
85	イムドクヨン	「日本の医療貧困ビジネス—貧乏な人のおかげでお金もちになる病院」	『ホームレス・ニュース』13号、ホームレス行動（韓国語）	2013年6月
86	イムドクヨン	「貧困ビジネスとは何か」	『ホームレス・ニュース』12号、ホームレス行動（韓国語）	2013年4月
87	イムドクヨン	「京都市で廃品収集者への初逮捕：秩序を理由とした貧民に対する攻撃」	『ホームレス・ニュース』11号、ホームレス行動（韓国語）	2013年4月
88	桐原尚之	『『精神病』者運動家の個人史（2巻）』長谷川唯、白田幸治との共著	立命館大学生存学研究センター刊	2014年3月
89	桐原尚之	「日本精神保健福祉士協会苦情処理規程の守秘義務違反の取り扱いに関わる課題—日本精神保健福祉士協会による懲罰処分の事例から」（研究ノート）	『精神保健福祉』44-3	2013年9月
90	桐原尚之	「法律家は精神障害者をどう見てきたか」（研究ノート）	『病院・地域精神医学』56-1	2013年8月
91	桐原尚之	「誰のための精神科救急医療なのか—入院者の95%以上が強制入院の運用実態」（研究ノート）	『京都ユーザーネットワーク通信』5	2013年7月
92	坂井めぐみ	「今できることをしよう」	障害者団体定期刊行物協会、『日本せきずい基金ニュース』No57	2013年6月
93	白田幸治	「『お茶のみ会』の報告—生活が苦しい人たちのほっとできる居場所」	反貧困ネットワーク京都、『反貧困ネットワーク京都ニュースレター』4	2014年2月
94	白田幸治	「ピアって、なに？」	社会福祉法人てりてりかんばにいジョイントほっと、『社会福祉法人てりてりかんばにい通信』56	2014年1月
95	白田幸治	「パネルディスカッション いのちとくらしを見つめる」	『2013年度日本精神病理学会パラレルイベントいのちとくらしを語り合うプロジェクト』	2013年10月
96	谷村ひとみ	「中年期に直面する親の老い—ジェンダーの非対称性から捉えられた父親の老い・母親の老い—」	晃洋書房、『対人援助学を拓く』	2013年7月
97	萩原浩史	「次世代を担う専門職をともに育てる—実践現場から大学や学生に求めること」（シンポジスト）	関西福祉科学大学、2013年度福祉・保育実習セミナー	2014年2月
98	萩原浩史	「しんどさへの理解—精神障害から身近な心の健康まで」（講師）	淀川区社会福祉協議会、淀川区社会福祉協議会推進員研修	2013年7月
99	萩原浩史	「地域活動支援センターにおける本場の相談支援業務の実際」（ゲスト講師）	関西福祉科学大学「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」	2013年6月
100	萩原浩史	「迷走する退院支援—大阪市の現状から」	日本精神保健福祉士協会、『PSW通信』184	2013年5月
101	松田有紀子	「祇園の四季を彩る着物たち」	誠文堂新光社、似内恵子『着物の文様とその見方—文様の格付け、意味、時代背景、由来がわかる』	2013年10月
102	吉田一史美	「あとがき」	立命館大学生存学研究センター、『生存学研究センター報告 22 生殖をめぐる技術と倫理 日本・ヨーロッパの視座から』	2014年3月

6. 受賞学術賞						
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月	
1	千葉雅也	紀伊國屋書店	紀伊國屋じんぶん大賞(第4回)	『動きすぎではいけない—ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』に対して	2013年12月	
2	桐原尚之	立命館大学	大学院リサーチプロポーザルコンテスト	敢闘賞	2013年12月	
3	坂井めぐみ	国際ソロプチミスト日本中央	2013年度第9回国際ソロプチミスト日本中央ベンチャーリジョン学生援護賞	わかば賞	2013年6月	

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	西成彦	比較植民地文学研究の基盤整備	基盤研究 (C)	2012年4月	2015年3月	代表
2	渡辺克典	病者・障害者における当事者運動組織のネットワーク形成と「国際化」に関する研究	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	代表
3	天田城介	現代社会における老いをめぐる社会構想の編成に関する研究	基盤研究 (C)	2013年4月	2018年3月	代表
4	小川さやか	中古品と非正規品の越境取引にみる現代アフリカの消費文化に関する研究	若手研究 (B)	2012年4月	2016年3月	代表
5	小泉義之	病の総合的研究を媒介とした哲学・倫理学の再検討と再構成	基盤研究 (C)	2009年4月	2014年3月	代表
6	千葉雅也	2000年代フランスにおける「ポスト構造主義以後」の存在論とその国際的受容の研究	若手研究 (B)	2013年4月	2016年3月	代表
7	長瀬修	障害者の権利条約の実施過程の研究	基盤研究 (C)	2013年4月	2018年3月	代表
8	松原洋子	高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上: ICTによる図書館の活用	基盤研究 (B)	2013年4月	2016年3月	代表
9	やまだようこ	三項関係ナラティブによる心理支援モデル—医療と教育の媒介ツールの開発	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	代表
10	近藤宏	気候変動の政治経済と中南米先住民の所有実践	研究活動スタート支援	2013年10月	2015年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
	やまだようこ	「三項関係ナラティブ支援モデル」による医療と患者をむすぶ媒介者を養成する教育実践プログラムの開発	三菱財団 社会福祉事業助成	2013年10月	2015年9月	代表
	西成彦	生存学の東アジア的展開に向けた国際学術研究交流会	立命館大学研究高度化 国際化推進	2013年4月	2014年3月	代表
	Dumouchel Paul	Social Justice and catastrophes	立命館大学研究高度化 科研費連動	2013年7月	2014年3月	代表
	小門穂	フランスにおける生殖補助医療と平等—同性婚法案審議の検討から	立命館大学研究高度化 若手研究	2013年7月	2014年3月	代表
	近藤宏	気候変動の政治経済と中南米先住民の所有実践	立命館大学研究高度化 若手研究	2013年7月	2014年3月	代表
	角崎洋平	福祉的貸付を通じた高齢者向け包括的支援の可能性と限界—リパースモーグ型生活支援制度の実例から	立命館大学研究高度化 若手研究	2013年7月	2014年3月	代表
	櫻井悟史	日本の軍刑罰にみる死刑存置を支える思考様式	立命館大学研究高度化 若手研究	2013年7月	2014年3月	代表
	永田貴聖	在フィリピン韓国人のトランスナショナル生活空間に関するエスノグラフィ研究	立命館大学研究高度化 若手研究	2013年7月	2014年3月	代表
	永田貴聖	在日との比較による在韓フィリピン人トランスナショナル生活空間への人類学研究	立命館大学研究高度化 科研費連動	2013年7月	2014年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国

以上。